

Ⅲ. 各原因の意義と調整方法

まずは6つの原因の意義と調整方法を知る必要があります。**企業側が調整を行うべきものについては仕訳も行う必要があります。**

①時間外預入

(1)意義

企業が、**銀行の閉店後に夜間金庫などに現金を預け入れること**をいいます。このとき、企業側ではこの日に当座預金勘定を増加させていますが、銀行は翌営業日に入金の処理を行うことになるので、その間一致しくなくなります。

(2)調整方法

銀行の翌営業日になれば銀行が入金の処理をし、両者の残高は一致します（時の経過より解決）。

そのため、**企業側は何もする必要がありませんが、銀行側は入金分だけ増加させる必要があります。**

例題Ⅲ-①

決算日に預け入れた現金2,000円が銀行の営業時間外であったため、銀行では翌日付けの入金として処理された。

【解答・解説】

仕 訳 な し

時間外預入では企業側においては何もしません。しかし、銀行側では増加させることを忘れないようにしましょう。両者の残高は以下のように一致します。

預金時	企業側 +2,000円	銀行側 ± 0円
調整	↓	↓
残高	+2,000円 ← 一致 →	+2,000円

②未取立小切手

(1)意義

他人振出の小切手を銀行に預け入れて取立てを依頼したにもかかわらず、銀行側が**未だ取り立てていない小切手**をいいます。この場合、企業側は預入時に当座預金を増加させていますが、銀行側ではまだ取立てが完了してないため、両者の残高は一致しくなくなります。

(2)調整方法

銀行がその小切手の決済を行えば一致するため、**企業側は何もする必要がありません**。そして**銀行側では、その小切手が決算日に未取立であっても、決済をすれば当座預金が増加するので、当座預金と扱うことにして、増加させる処理を行います。**

例題Ⅲ-②

銀行に取立依頼をしていた小切手10,000円が、決算日において銀行では未だ取り立てていなかった。

【解答・解説】

仕 訳 な し

企業側は預入時に当座預金を増加させているので調整をする必要はありません。しかし銀行側は未取立小切手も当座預金とみなして増加させる必要があります。

預入時	企業側 +10,000円	銀行側 ± 0円
調整	↓	↓
残高	+10,000円 ← 一致 →	+10,000円

③未取付小切手

(1) 意義

振り出して取引先に渡したにもかかわらず、その取引先が**まだ銀行に呈示されていない小切手**をいいます。この場合、企業側は振出日に当座預金を減少させていますが、銀行側ではその小切手を呈示されてから減少処理をするため、両者の残高は一致しなくなります。

(2) 調整方法

企業側はすでに当座預金を減少させているので、**何もする必要がありません**。そして**銀行側では、その小切手が決算日に未取付であっても**、呈示されれば当座預金を減少するので、当座預金と扱うことにして、**減少させる処理を行います**。

例題Ⅲ-③

取引先の営業費支払いのために振り出した小切手5,000円が未だ銀行に呈示されていなかった。

【解答・解説】

仕 訳 な し

企業側は振出時に当座預金を減少させているので調整をする必要はありません。しかし銀行側は未取付小切手も当座預金とみなして減少させる必要があります。

	企業側		銀行側
預入時	△5,000円		± 0円
調整	↓		△5,000円
残高	△5,000円	← 一致 →	△5,000円

④未渡小切手

(1) 意義

未だ取引先に渡っていない手許にある小切手をいいます。この場合、企業側は、小切手を振り出した時点で当座預金を減少させていますが、銀行側ではその企業から実際には小切手をもっておらず処理のしようがないため両者の残高は一致しなくなります。

(2) 調整方法

小切手が未渡しであるので、企業側の当座預金は実際減少していません。したがって、**減少させた分を増加させれば**両者の残高は一致します。

つまり**銀行側は、何もする必要がありません**。

例題Ⅲ-④

決算日に金庫内を実査したところ、仕入先に対して振り出した小切手3,000円および広告宣伝費の支払いのために作成した小切手2,500円が保管されていることが判明した。なお、いずれの取引も帳簿上は支払い済みとして処理されている。

【解答・解説】

まず、振り出したときの仕訳を想定すると、

○仕入先に対する小切手分

(借) 買掛金 3,000 (貸) 当座預金 3,000

○広告宣伝費支払いのための小切手分

(借) 広告宣伝費 2,500 (貸) 当座預金 2,500

このような仕訳が考えられますが、実際は当座預金は減っていないので、この逆仕訳を行います。

なお、貸方は共通して当座預金ですので2つの仕訳をまとめてしまいます。

(借) 当座預金 5,500 (貸) 買掛金 3,000
 広告宣伝費 2,500

上のような仕訳を行えば当座預金も増えて一件落着、と
 いいたいところですが、実はこの仕訳は間違っています。
 というのも「広告宣伝費」という費用は実際に発生した
 わけですからそれを減らすわけにはいきません。

どうすればいいかという、3級で出てきた「未払金」
 を使います。これならば、実際に発生した費用を減らさず、
 しかもまだ支払っていない事実までも記録できます。

(借) 当座預金 5,500 (貸) 買掛金 3,000
 未払金 2,500

復習もかねて、「買掛金」以外でまだ支払っていないも
 のはここでも同様に「未払金」として処理します。

	企業側		銀行側
預入時	△5,500円		± 0円
調整	+5,500円		↓
残高	± 0円	← 一致 →	± 0円

⑤連絡未通知

(1)意義

銀行で入金や出金があったにもかかわらず、未だ銀行から
 その通知をもらっていないことをいいます。この場合、
 企業では何も処理をする余地がないので、当然に両者の
 残高は一致しなくなります。

(2)調整方法

企業側は銀行から入金の通知があれば当座預金を増加、
 出金の通知があれば当座預金を減少させる必要があります。
 いうならば未処理と同じことです。

銀行側は入金または出金時に処理しているので何もする
 必要がありません。

例題Ⅲ-⑤

得意先からの売掛金3,000円の振り込みと手形代金
 1,000円の引落しがあったが、この通知が当社に届いて
 なかった。

【解答・解説】

上記の取引は未処理なので仕訳を行います。

(借) 当座預金 3,000 (貸) 売掛金 3,000
 支払手形 1,000 当座預金 1,000

上のままでもいいですが、相殺できるものはそうした形で
 解答した方がいいでしょう。

(借) 当座預金 2,000 (貸) 売掛金 3,000
 支払手形 1,000

	企業側		銀行側
取引発生時	± 0円		+3,000円 △1,000円
調整	+3,000円 △1,000円		↓
残高	+2,000円	← 一致 →	+2,000円

⑥誤記入

(1)意義

企業側が、実際に預け入れまたは引き出した金額とは
 違う数値で記帳をしてしまったことをいいます。この場合、
 銀行側は適切に処理されているので、誤って記帳した金額
 との差額分だけ両者の残高は一致しなくなります。

(2)調整方法

企業側は、実際に預け入れまたは引き出した金額になる
 ように当座預金を増減させます。これは、誤処理と同じ
 感覚です。

そして銀行側は適切に処理しているので何もする必要が
 ありません。

例題Ⅲ-⑥

得意先からの売掛金16,000円が振り込まれたが、誤って10,000円と記帳していた。

【解答・解説】

振り込まれたときは次の仕訳を行っていました。

(借) 当座預金 10,000 (貸) 売掛金 10,000

本来は16,000円だったため次の仕訳を行うべきでした。

(借) 当座預金 16,000 (貸) 売掛金 16,000

行うべき仕訳から当初間違っ行った仕訳の逆仕訳を差し引いたものが修正仕訳となります。

(借) 当座預金 6,000 (貸) 売掛金 6,000

	企業側		銀行側
振込時	+10,000円		+16,000円
調整	+6,000円		
残高	+16,000円	← 一致 →	+16,000円

例題Ⅲ-⑦

得意先からの売掛金の振込額50,500円を誤って55,000円と記帳していた。

【解答・解説】

当初行った仕訳

(借) 当座預金 55,000 (貸) 売掛金 55,000

正しい仕訳

(借) 当座預金 50,500 (貸) 売掛金 50,500

修正仕訳

(借) 売掛金 4,500 (貸) 当座預金 4,500

	企業側		銀行側
振込時	+55,000円		+50,500円
調整	△4,500円		
残高	+50,500円	← 一致 →	+50,500円

6つの要因のそれぞれの調整方法をまとめると、次のようになります。

不一致の原因	企業側が行う調整	銀行側が行う調整
時間外預入	なし	増加処理
未取立小切手	なし	増加処理
未取付小切手	なし	減少処理
未渡小切手	減らした当座預金を戻す(※)	なし
連絡未通知	未処理の修正と同じ	なし
誤記入(誤記帳)	誤処理の修正と同じ	なし

(※)「買掛金」以外のものは「未払金」として処理。